

JFM だより

Vol.13

※JFMとは、
Japan
Finance Organization
for Municipalitiesの略称です。

今号の表紙

奈良県三宅町 三宅幼児園・伴堂保育所



INDEX

JFMトピックス	P1
JFMをもっと知って!	P5
[融資の実] 奈良県三宅町 三宅幼児園・伴堂保育所	P7
がんばる公営競技	P11
自治体ファイナンスよもやま話	P13
地方支援ダイアリー	P15
基金運用ひとくちメモ	P17
JFM人事交流日記	P18
平成27年度地方公共団体ファイナンス表彰募集のお知らせ	P19
私たちもJFM債買ってます!	P19

地方の、地方による、地方のための



地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities



園の先生方で作った、「ゆめつくろう みやけっ子」のお揃いシャツ

奈良県三宅町 三宅幼児園・伴堂保育所



三宅に生まれたことを誇りに ～ゆめつくろう みやけっ子～

時代の流れの先を行き、昭和56(1981)年に幼稚園と保育所の実質的な一体運営を開始した奈良県三宅町の「三宅幼児園」。平成25年に大規模改修を実施し、子どもたちが過ごしやすく、職員にも保育のしやすい施設に生まれ変わりました。また、季節のイベントなどを通じた町の方たちとの交流は更に活発になり、幼児園は三宅町の未来を象徴する施設として大きな役割を果たしています。



プールも整備。
絵は園児の父親の力作



天井が高く、自然光のたくさん入る明るいホール



プール入口から見る新園舎



玄関付近も明るく清潔に

30年以上も前からの「幼保一体化」

子ども・子育て支援の大きな取組みの一つとして平成18年度から導入され、全国で普及が広がっている「認定こども園」。幼稚園と保育所の機能を一体化し、就学前の子どもの受け入れに柔軟に対応しようというのですが、奈良県三宅町の「三宅幼稚園」はこうした動きよりはるか以前から、実質的な「幼保一体」で運営されてきました。

「伴堂保育所」と「三宅幼稚園」の二つを合わせて三宅幼稚園と呼んでいて、正式には別々の施設ですが、昭和56年以來、一体的な運営方針や保育内容でお子さんたちをお預かりしています。開所当時、幼保一体化は全国でもあまり数は無く、まさに認定こども園の先駆けのような形ですね。ほとんどの子どもたちが目の前の三宅小学校へ進むのですが、それ以前から顔馴染みで、同じ目標の幼児教育を受けていることには色々なメリットがあると思います。入園式も卒園式も一緒ですし日常的な交流があるので、子どもたちが幼稚園と保育所の違いを感じることはほとんど

どないはずです」(三宅幼稚園・吉井五十鈴園長/「」内のコメント以下同)

昭和52年に伴堂保育所が現在の場所に新築移転し、その2年後に三宅幼稚園も隣接地に移転したのが幼保一体化のきっかけになったとのこと。さらに平成14年には0～2歳児の保育を担っていた町内のもう一つの保育所も統合され、三宅幼稚園は0～5歳児までを保育所コースと幼稚園コースで預かる施設となりました。

三宅幼稚園では「生きる喜びと力を育む」という基本方針の下、「ゆめつくらう みやけっ子」を保育目標に掲げ



子育て支援センター



完成披露会の様子



園児から、工事関係者の方へ花束を贈呈しました



改修前

トイレは全面的に改修され、明るくきれいで使いやすいと好評です



外壁もきれいなため、雰囲気も明るく

ています。これは三宅町の街づくりの方向性を示す「ゆめ」つくるうみやけにに合わせて定められました。そして、元気でいきいきと遊ぶ子・自分や友達を大切にできる子・豊かな感性をもつ子・最後までやりぬく子、という四つの具体目標を設けて保育事業を進めています。

平成25年の大規模改修で、より快適で機能的な保育所に

宅幼稚園は町内で唯一の大切な保育施設ですが、建てられてから40年近く経つため老朽化も目立っていました。また地震などへの備えの必要もあり、平成24年に幼稚園の耐震補強と大規模改修工事を実施。保育所の方は耐震面での問題はなかったものの、機能的に生まれ変わった幼稚園と同様に設備面での見直しが必要との判断から、こちら也大規模改修を行うこととなりました。

「この改修計画には先生方の意見も取り入れています。その結果、子どもたちにも先生方にも快適で、保育がしやすく、緊急時の避難経路なども拡充した本当に見違えるような施設になりました。中でも、園児が一堂に集まって利用することの多いホールが明るく広々としたものになったことや、トイレが最新の設備で一新されたことなどが好評です」

保育所の改修は町の人たちからも好意的に受け止められ、平成25年秋の工事完了後に行った地域の子育て環境の満足度に関する町民アンケートでも、「保育所の改修で子育て環境が大幅に充





実した」との回答が上位2番に入るほどでした。また、他地域からの転居を計画している若い家族が、三宅幼稚園を見て三宅町への転入を考えるという例も出てきているそうです。

今回の大規模改修はハード面だけでなく、職員の気持ちを変える効果も生まれました。幼稚園が町の大切な施設として明確に位置づけられたことにより、園側も町の人たちとの交流を積極化。夏には園児手づくりのソーラーランタンなどによる「みやけゆめランタン」、冬には色とりどりのソーラーイルミネーションで飾り付けられた園内で、数々のイベントが繰り広げられる「みやけゆめキラリ」を催すなど、町の方たちとの接点を広げています。



平成26年の「みやけゆめランタン」では、地元の絵本「おうてくれ地蔵」を題材にした人形劇が好

評でした。古くからの歴史を紡ぐ三宅町には、地元で伝わる数多くの民話があります。三宅町ではそれらの民話を町民の協力で絵本にし、各戸に無料配布しています。古からの歴史と伝統を後生に伝えたい、その熱い思いが幼稚園にも伝わっているのです。

「三宅町を誇りに思い、三宅で生まれて良かったと言える子どもになってほしいと考えています。ここでの良い思い出をたくさん持った大人になることが、さらに次の世代にもつながるはずですから。そのためにも、園児だけでなく

もっと幅広いお子さんや親御さんの力になるのが今の課題です。子育て支援センターの充実や一時保育の拡充など、家庭で子育てを行っていて孤立しがちな親御さんたちの支援にも努めていますが、やるべきことはまだまだたくさんあります」

三宅幼稚園は、これからも子どもたちの未来を育むお母さんのような存在として町を見守っていきます。

三宅町情報コーナー

奈良県磯城郡三宅町は、奈良盆地のほぼ中央に位置し、王家の食糧倉庫・屯倉(みやけ)がこの付近にあったことから、名付けられたといわれています。三宅町の面積は、奈良県でいちばん、全国でも第二位の小ささ(4.07km²)ではありますが、古代からの「でっかい浪漫」あふれる由緒あるまちです。

邪馬台国が桜井の纏向(まきむく)遺跡周辺であったとすると、このあたりは、当時の首都圏であり、平地のあちこちに散在する小型の前方後円墳は、当時の王家に関係する人々の墓と考えられています。また、町内に残る国号地名(石見、三河、但馬)も、当時の中心地の一部であり、遠方から人々がこの周辺に集まってきていたことをうかがわせています。

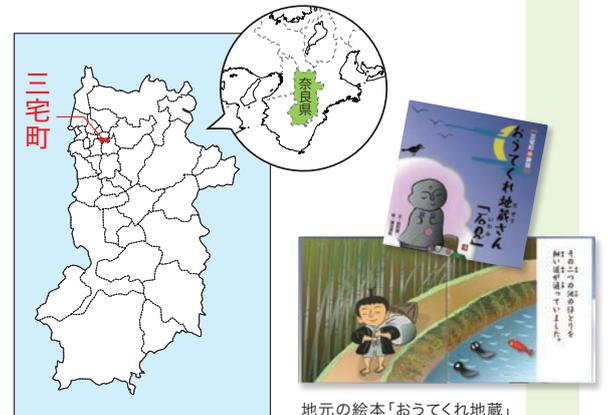
(三宅町役場発行・「三宅町の民話」三宅町についてより)

三宅町情報コーナー

人口 7,174人 2,944世帯

(平成27年1月1日現在)

三宅町HP <http://www.town.miyake.nara.jp/>



地元の絵本「おうてくれ地蔵」